

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
【部門区分】第 1 部門第 2 区分
【発行日】平成 17 年 8 月 18 日 (2005.8.18)

【公表番号】特表 2004-535879(P2004-535879A)
【公表日】平成 16 年 12 月 2 日 (2004.12.2)
【年通号数】公開・登録公報 2004-047
【出願番号】特願 2003-515143(P2003-515143)
【国際特許分類第 7 版】
A 6 1 B 17/58
【F I】
A 6 1 B 17/58 3 1 0

【手続補正書】

【提出日】平成 15 年 12 月 25 日 (2003.12.25)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

患者の脊柱または骨盤の骨に対する埋め込み装置であって、
前記埋め込み装置は、

埋め込まれた場合、骨内部でのぐらつきや、骨からの抜去に対して抵抗性を示し、

患者の脊柱または骨盤内で骨に向き合う第 1 面を有する台と、前記台の回転によって
骨の中に埋め込まれる少なくとも 1 本の螺旋スパイクと、を有し、

前記第 1 面は実質的であり、前記装置の長軸に対し、ほぼ垂直に伸び、

前記台は脊柱固定インプラントに接続するための構造を含み、

前記少なくとも 1 本の螺旋スパイクは、

前記台の第 1 面から接線方向に突出し長軸の周囲に延び、

近位端と遠位端を有し、

前記台が回転するにつれて骨中に侵入する前記遠位端における先端と、前記台の前記
台 1 面に接続される前記近位端における接合部と、前記接合部と前記先端部との間に伸び
る中間部と、を有し、

前記少なくとも 1 本の螺旋スパイクの前記中間部と前記接合部のうちの少なくとも一つ
は、前記少なくとも 1 本の螺旋スパイクの外径と内径によって定められる管状断面を有す
る埋め込み装置。

【請求項 2】

前記少なくとも 1 本のスパイクの前記中間部は管状断面を有し、かつ、前記接合部およ
び前記先端部のうちの少なくとも一つは、実質的な断面を有する請求項 1 に記載の装置。

【請求項 3】

前記長軸の周囲に延びる一対の螺旋スパイクを含む請求項 1 に記載の装置であって、前
記一対の螺旋スパイクの前記近位端は互いに 180° 隔てられている装置。

【請求項 4】

前記長軸の周囲に延びる 3 本の螺旋スパイクを含む請求項 1 に記載の装置であって、前
記螺旋スパイクの前記近位端は互いに 120° 隔てられている装置。